

郷土 第2号発行にあたりて

野 呂 己之松



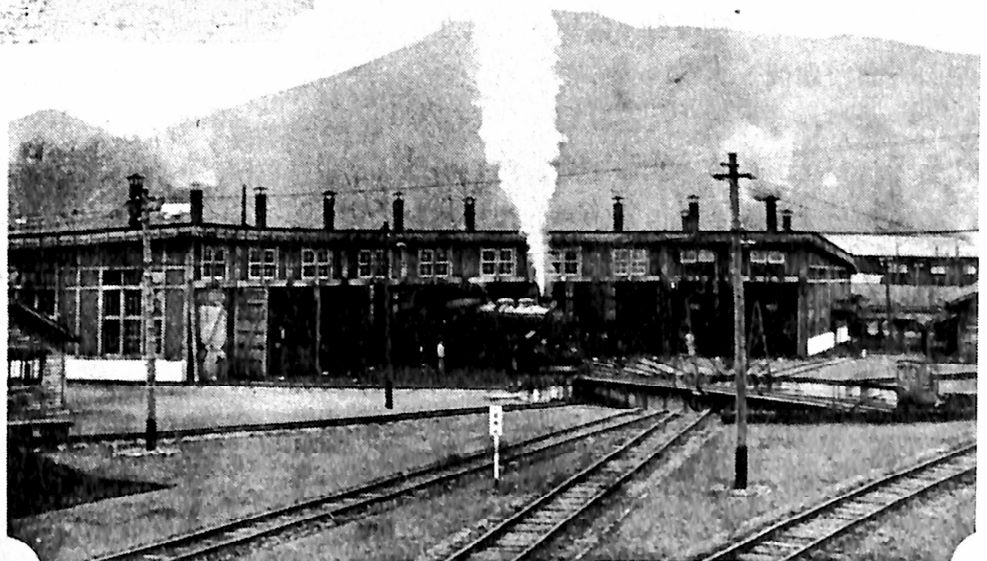
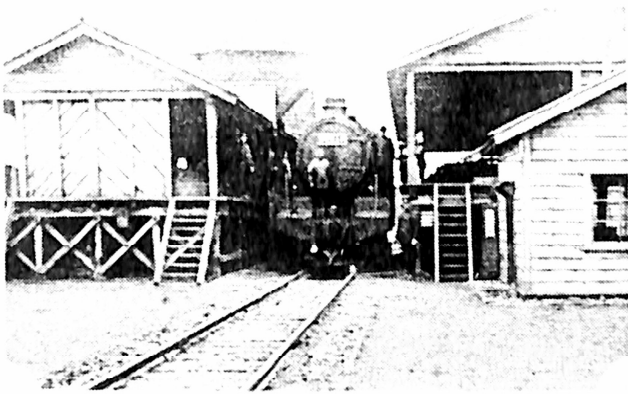
明治33年、忠別（旭川）落合間に官設鉄道は走っていた。
この鉄道無蓋貨車に乗って多くの移住民の人々は落合に着き、
そして徒歩で石狩国道を串内から国境を越え、十勝に入って
来ました。

努力すれば、頑張れば、自分のために広い土地が持てるこ
とを夢みて、刈分け路を困難を極めながら新得の地に落着い
たのです。自然の猛威と闘いながら、なま木に火を付けるような

苦勞を続け、くじけそうになる心を希望の灯で奮いたたせて、今日の新得を築きあげた先人の尊
い事蹟を、未来に向けて語り継いでゆくために、「郷土」第2号を発刊することになりました。

編集にあたって、数多くの人々の励まし、協力を得ましたことに、厚い感謝を申し上げる次第
です。 会員一同、今後も一層努力いたして参ります。

ご高覧いただければ、真にありがたいことと存じます。



昭和3年頃の新得機関庫

資料提供 森田勝美 殿